



所沢市立北野中学校 学校だより 令和6年度9月号

北野中だより

校長



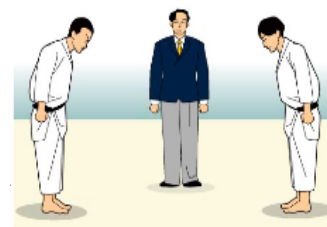
昔、私が初めて合気道の稽古に参加した時の話です。70代後半の先生に、「私にパンチをしたり、つかみかかったりしなさい。」と言われ、パンチをしましたが、サッとかわされてしまいました。つかみかかろうと腕を伸ばしたところ、先生の親指と小指に手首を軽くはさまれ、どの方向に動こうとしても関節が痛くなり、全身が動けなくなりました。

また、ある場面では先生と、お互い正座をして向き合い、両手を前に出し、腕を持つ・持たれるという立場を交代しながら、相手を倒そうと押し合うことをやりました。その際に先生から「私の握力は15kgしかないんだけど、君は握力どのくらい？」と聞かれたので「握力は70kgです」と答えました。自分よりもずいぶん小柄な先生に対して、絶対に負ける気がしませんでした。しかし、押し合いが始まると、全く先生の体を後ろに崩すことができずに、最後はこちらが押されて倒されてしまいました。「君は力があるけれど、それが内にこもっていて出せていない。指先から気を出して、わしの体を突き抜けその後ろの壁にぶつけてみなさい。」という理解が難しいアドバイスをいただき、何回も挑戦しましたが、すべて倒されてしまいました。力やスピードではない、不思議な世界があるのだと思い、その後稽古にのめりこんでいきました。

合気道の稽古は今も細々と続けており、何年もやらなかったブランクを除くと、もう20年にもなります。そんな中で大切にしたいと思っている言葉があります。「お互いに礼！」という言葉です。その言葉の意味・持つべき意識を大事にしようと常に思っています。

稽古の始めと終わりには、必ず「お互いに礼！」の言葉が入り、礼をします。また、稽古で相手と組む際にも、互いに礼をして稽古を始め、そして互いに礼をして終わります。相手がいて、稽古が出来るということで相手に感謝をする意味の礼です。また、経験が浅い者は、教えてくれる相手に対して教えてくれるということに感謝の意味で礼をしますが、教える側も分かりやすく教えようと意識することにより、その技についての理解度が高まり、改めて学ぶ機会を与えてくれた相手に感謝の意味で礼をします。相手を尊重し、相手に感謝をする礼です。

「お互いに礼！」という言葉を使わなくても、互いに礼を行う場面は、みんなの生活の中にもたくさんあると思います。例えば、何かの試合で相手選手や相手校に礼をする場面です。相手を尊重することにより、いい加減なプレーは出来ないという意識が高まりそれが自分や相手の技術向上につながっていきます。



礼を大事にすることは、相手を尊重すること、相手と共有する時間・行動を大切にすることにつながり、それがお互い高めあうことに結びつくのでは、と思います。

AEDが正門に設置されました

AED（自動体外式除細動器）が所沢市内全小・中学校の校地外に設置されることになり、本校の正門にも設置されました。どなたでも使用できますので、設置されていることを覚えておいていただき、緊急時にご使用ください。



北野中学校区学校運営協議会
(コミュニティ・スクール) ロゴマーク



北野中ホームページはこちらから
～毎日更新、情報発信に努めております～
<https://tokorozawa-kitano-jhs.edumap.jp>

